



SIMOT Research Center NEWS LETTER



No.34 2008.07

東京工業大学 インスティテューショナル技術経営学リサーチセンターニューズレター

目次

	ページ
● 海外活動報告	
日・フィンランド学術交流	
- 肥田野運営委員ユヴァスキュラ大学訪問	1
KMO 2008 会議	2
SCG における IP Seminar	2
● イベント報告	
エネアグラムによるスタートアップ・ベンチャーのリーダー診断	3
ヒューレット・パッカード (HP) 社との協力	3
● コラム	
「地球温暖化のゆくえ」	3
● 最近の動き	4
● イベント予定	4
● SIMOT 関連国際シンポジウム	4
● 連絡先	4

海外活動報告

日・フィンランド学術交流 - 肥田野運営委員ユヴァスキュラ大学訪問

(2008年6月22-25日 フィンランド ユヴァスキュラ)



ユヴァスキュラ大学は、ヘルシンキの北 200Km の風光明媚な研究学園都市に立地し、IT 研究・教育・産業を誇るフィンランドにあって、最も歴史ある最大規模の IT 学部を擁しています。隣接するノキアとの一体的な研究教育を特徴とし、先端企業との産学連携のパイオニアとして同国のイノベーション、科学技術、教育の革新に指導的役割を果たしているユニークな大学です。

今般、本センターの運営委員で、社会理工学研究科の研究科長を務める肥田野登教授の訪欧に際して、ネイタアンマキ教授を始めとするユヴァスキュラ大学関係者の強い要請があり、6月22-25日に同研究科長の訪問が実現しました。肥田野研究科長は、滞在中、求めに応じて下記のテーマで2度にわたり特別講義を行い、東工大社会理工学研究科及びSIMOTの取り組みが広く喧伝され、同大学との関係はますます緊密化しました。

1. What are Tokyo Institute of Technology and Human Economic Science Network?
2. Does a mental account or a task to think about the monetary ranges reduce anchoring effects in contingent valuation? - A case of anti-global warming policy evaluation.



SIMOTは、かねてより同大学の注目するところであり、昨年6月には、渡辺センター長を、同大学で開催されたフィンランド科学アカデミー国際シンポジウムの基調講演者として招待し（本 Newsletter 2007年7月号参照）、本年2月末の第4回 SIMOT 年次国際シンポジウムでは、サリネン学長が来訪し「大学・イノベーション及び競争力：フィンランドの示唆」と題する基調講演を行っています（本 Newsletter 2008年3月号参照）。これらを契機として本年3月からは同大学数理

情報工学部のユホ・ヘッキニン助教が本学客員研究員として「イノベーション誘発ダイナミズムの数理分析」の共同研究を行っています（本 Newsletter 2008年4月号参照）。同助教の指導教員のネイタアンマキ教授は先頃発表された「フィンランドイノベーション戦略（Finland's National Innovation Strategy）」の起草者に名を連ね、同国のイノベーション戦略創造に指導的役割を果たしています。

研究科長の訪問は、既に堅固とも言えるユヴァスキュラ大学との協力関係に更なる弾みをつけることになりました（現在、ユホ・ヘッキニン客員研究員を介した「イノベーション誘発ダイナミズムの数理分析」の先の共同研究の他、センター長も国際プログラム委員となり、2009年5月6-8日にユヴァスキュラ大学において CAO' 09（Control Applications of Optimisation）国際ワークショップを開催すべく精力的な準備を進めています（<http://www.automaatioseura.fi/CAO'09>）。さらに、かねてからユヴァスキュラ大学より、同大学にSIMOTのサテライト拠点を置くことを懇請されており、その試行についても検討中です。



KMO2008 会議 (2008年6月24-25日 フィンランド バーサ応用科学大学)



SIMOT リサーチセンター運営委員の菊池特任教授が、フィンランドの Vaasa で開催された KMO（Knowledge Management in Organizations）2008 会議にスピーカーおよびパネリストとして参加しました。ナレッジ・マネジメントとサービス・サイエンスの接点を探る同会議には、欧州諸国（イタリア、英国、スロベニア、オランダ、フィンランド、スペイン、ルーマニア、オーストリア、ブルガリアなど）および東アジア（マレーシア、日本、タイ、中国、パキスタン、台湾など）、南米（チリなど）から多数の参加がありました。同特任教授は ”Servitization coupled with

Brandization Imperative to Japanese Manufacturers” とのテーマの発表の中で日本製造業の今後を問い、また共著の ”Management in the “Organization Gravity Field” to Create Service Innovation” では、サービスイノベーションの惹起に必要な組織のあり方について論じています。会議の最終プログラムであるパネル・ディスカッションでは、サービス類型と日本のインスティテューションの親和性や日本の歴史的なリスク耐性などについて意見を述べ、多くの聴衆の関心を喚起し、多数の積極的な質問やコメントを招来しました。

この会議には SIMOT ポスドクの Rémy Magnier-Watanabe も出席し ”Congruent Knowledge Management Behaviors as Discriminate Sources of Competitive Advantage” のテーマで日頃の研究の進捗を発表し、KM の進展に貢献しました。

SCG における IP Seminar (2008年6月26-7月1日 タイ)

SIMOT リサーチセンター員でイノベーションマネジメント研究科の田中義敏准教授は、2008年6月26日から30日まで、タイ国サイアムセメントグループ（SCG）の招きにより、グループの知的財産教育（SCG IP Seminar）において講演を行いました。課せられたテーマは ”IP for R&D” であり、日本企業の知財戦略、R&D における知財活動の役割、企業内で統合化された知財活動の構築に関して、講演及び Work Shop を担当しました。SCG は、タイ国では有数の国際企業に成長しており、化学、紙、セメント、建築資材、流通、投資の6つのビジネスユニットを有し、我が国企業との合弁事業も積極的に進めてきた企業です。トップマネジメントからは、社員全員に、Keith Sawyer, “Group Genius - The Creative Power of Collaboration-” が配布され、Networking によりビジネスユニット間の連携を進め Collaborative Organization の実現による新たなシナジーを生み出す組織づくりが進められています。IP Seminar もその一環であり、我が国において知的財産立国のもとに進められている知財の創造、保護、活用が、すでにタイ国の企業内で実践されつつあることに深く感銘を受けた由です。



■ イベント報告 ■

エネアグラムによるスタートアップ・ベンチャーのリーダー診断 (2008年7月4日(金) 東工大 百年記念館)



研究・技術計画学会国際問題分科会7月例会では、虎ノ門経営企画株式会社代表取締役社長 阿片公夫氏に、「エネアグラムによるスタートアップ・ベンチャーのリーダー診断」というテーマでご講演いただきました。エネアグラムの原型は、2千年前のアフガニスタン地方から伝わったと言われており、個人の特性を9つのタイプに分類する人間理解のための秘伝に端を発します。その後、米国スタンフォード大学の科学者や心理学者による研究・整理を経て、理論化・体系化されたものが現在のエネアグラムです。講演では、エネアグラムによる9つの性格タイプの特徴の詳細および経営面での活用の方策について、導

入企業事例などを含め解説していただきました。SIMOT では、毎年、東京工業大学文化祭 (工大祭) において、SIMOT 関連企画として「君たちはビル・ゲイツになれるか」とのブランドネームの下、エネアグラムを用いた性格診断テストを行っております。参加者の診断結果と、名のあるベンチャー起業家18名のデータとを比較することで、実践的な起業・経営に対する参加者の適性を検証しています。SIMOT の目指す次世代国際リーダー育成の観点からも、エネアグラムの企業経営への活用の考察は、有益なテーマと言えそうです。



ヒューレット・パッカード (HP) 社とのグローバルなコラボ



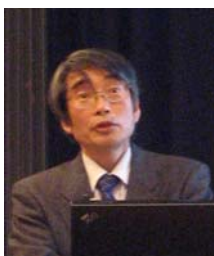
「1930年秋、私は郷里を離れ、スタンフォード大学に入学した。そこで、同じ新入生のビル・ヒューレットに出会った。4年生の頃には2人はすっかり親しくなっていた。私はビルや数人の友人とともに、卒業後、事業を始めることにした。そして、1939年、われわれは会社を興した」で始まるデービット・パッカードの「HP ウエイ：シリコンバレーの夜明け」はSIMOTに携わる若き学徒の血をも沸かせます。創業から70年を経て、HPはますます意気軒昂で、オープンイノベーションのグローバル展開に挑戦しています。世界中の主な研究拠点に「Open Innovation Office, HP Labs」を創り、世界規模でのオープンイノベーション実験に取り組み、SIMOTの国際コラボレーターの何人かはそれに関与しています。第1回国際シンポジウム来一貫して、インドの協力リーダーを務めているインド国際工科大学の Vinnie Jauhari 教授もその一人で、インドの Open Innovation Office の責任者の地位にあります。今般日本にも同じ拠点が創られ、初代の責任者に着任した中川真也リーダーが、7月4日に渡辺センター長を訪ね、SIMOTとの協力を提案してこられました。夏の太陽の下、70年前のビルとデービッドの若き血潮を想起し、歩調を合わせてグローバル・オープンイノベーションに向かって前進する事を約しました。

■ コラム ■

「地球温暖化のゆくえ」

SIMOT リサーチセンター員

東京工業大学大学院社会理工学研究科教授 村木 正昭



温室効果ガスの排出量が地球の処理能力の約2倍に達し、濃度上昇による地球温暖化の様々な悪影響が予測され、温室効果ガス排出量の大幅な削減が必要との認識が共有されている。しかし、7月に開かれた洞爺湖サミットでの世界の温室効果ガス排出量の約8割を占める主要排出国会議で、2050年までに世界全体の温室効果ガス排出量を50%以上削減するという長期目標に合意できなかったことは記憶に新しい。想定される技術移転や技術革新によるエネルギー効率や原単位の向上を考慮しても、量的な拡大が経済発展の源になっている現状では、温室効果ガス削減量(排出量)を各国に割当てることは、特に発展途上国にとっては経済発展や国際競争力の足枷になり、世界全体で排出量

の半減という総論には賛成であるが、自国に排出量に関する義務を負う各論に反対することは容易に想像される。温室効果ガスの割当て量を算出するためのモデルの構築よりも、温室効果ガス排出量の削減が社会・経済発展にとってネガティブではなくポジティブとなるモデルを構築する必要がある。種々の仮定のもとであるが“超長期ビジョン検討会の報告(環境省)”によると、2050年において2000年比の70%削減が日本では可能と推定している。発展途上国を含む多くの国についても、将来的な温室効果ガスの削減が国民生活・社会にどのような影響があるのか検討し、低炭素社会が優位となる社会・経済モデルを構築することが肝心である。このモデルを共有してはじめて commons の悲劇を回避できると思う。

最近の動き

● 海外出張

渡辺 8月10日～17日、9月5日～15日 ウィーン (IIASA)

イベント予定

第6回 Inter-COE シンポジウム - SIMOTセッション

日時 8月8日(金) 13:00-17:00 (予定)

場所 東京工業大学 西9号館

テーマ 「君たちが創る日本企業の未来
～品格と希望とやりがいと満ちた日本に向けて～」

内容 日本という環境(インスティテューション)の中で、企業はどう品格ある繁栄に向かえるだろうか？
グローバル化が叫ばれる時代に、君たちは何をこの国の企業に期待し、また貢献できるだろうか？
オープンに想いを分かち合おう。

研究・技術計画学会 国際問題分科会 8月例会

日時 8月27日(水) 18:00-21:00

場所 東京工業大学 百年記念館 第1会議室

テーマ 「ジャパン・アズ・ナンバー2??日本企業の国際競争力-インスティテューショナル技術経営学への示唆」

講師 ウィリアム・スウィントン氏 (テンプル大学ジャパン・キャンパス
ビジネス・マネジメント学科長、エグゼクティブMBAプログラム ディレクター)

SIMOT 関連国際シンポジウム

先月号でもお知らせしましたように、10月に下記のSIMOTも関与する日独共催国際シンポジウムが開かれ、センター長を始めとして準備に奔走しています。

一方、日米共催国際シンポジウムは、本センターの中原恒雄評価委員長が組織委員長を、センター長がプログラム委員長を務めています。

(<http://www.tmcjapan2008.org/>)

日独共催国際シンポジウム 「高齢社会におけるビジネスチャンスと企業責任」

日時 10月3日(金)・4日(土)

場所 国際連合大学本部 国際会議場

主催 ドイツ-日本研究所、ハンブルグ工科大学、国際連合大学、東工大 SIMOT

詳細 <http://www.dijtokyo.org>

日米共催国際シンポジウム 「技術経営の新たな方向」

日時 10月12日(日)・13日(月)

場所 東大生産研究所

主催 研究・技術計画学会、日本工学アカデミー、IEEE

詳細 <http://www.soc.nii.ac.jp/jssprm/english.html>

SIMOT 年次シンポジウム 2009 の日程が確定いたしましたので、是非ご記憶下さい。

2009年2月21日(土) 22日(日)

February							2009
1	2	3	4	5	6	7	
8	9	10	11	12	13	14	
15	16	17	18	19	20	21	
22	23	24	25	26	27	28	

坂本美樹さん快挙!



右は女子優勝マレーシアの Nor Atasha 選手
センター長秘書の坂本美樹さんは 7/18-22
日、クアラルンプールで開かれた ITSF (国際
テニス連合) 世界選手権大会
に日本代表として出席し、Open Mixed
Doubles で準優勝の快挙を遂げられまし
た。坂本さんは一貫して日本女子ランキン
グ 1 位で、この快挙により世界ランキン
グも一気に一桁に上がる見込みです。SIMOT
一同にとっても真夏の一抹の涼風でした。

● ● 発行 ● ●



東京工業大学 21 世紀 COE プログラム
「インスティテューショナル技術経営学」SIMOT 事務局

〒152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1 W9-51
東京工業大学大学院社会理工学研究科経営工学専攻内
西 9 号館 208B 号室

TEL: 03-5734-2936 FAX: 03-5734-2250

Email: yoshino.m.ad@m.titech.ac.jp

URL: <http://www.me.titech.ac.jp/coe/>

編集者: 菊池 隆